

# 大阪大学図書館報

## 目

- 夜間開館を9時まで延長
- 大阪大学の源流
- 教官寄贈図書のお願い
- 教官著作寄贈図書
- ブックディテクションを設置して

## 次

- 昭和57年度館内オリエンテーションのお知らせ
- 会議
- 日程
- 館内の動き
- 人事

## 夜間開館を9時まで延長

——本館・中之島分館4月から実施——

本館では、従来、授業休業期間を除き、平日は午後7時まで、土曜日は、午後3時まで開館してきた。この態勢を発展させて、4月の授業開始日から、開館時間をさらに、2時間、延長することになった。また、中之島分館も、従来の平日、8時までの夜間開館を1時間延長し、本館・中之島分館とも、平日(月～金)は、午後9時まで、土曜日は午後5時までの開館時間となった。

夜間開館は、館種を問わず全国的にも着実に進行しているが、職員の勤務の体制、条件、館内諸施設との関連で考慮すべき問題が少なくない。しかし、本学における教育・研究機能の拡充のために、関係各方面の協力を得て、このたび開館延長が可能になった。

本館では、全職員の協力のもと、夜間の専任要員をもおき、夜間開館の充実につとめたい。ただ、業務担当者全員が閲覧業務の専門要員ではないので、緻密(ちみつ)なサービスは、

午後5時(土曜日は12時30分)までに受け  
ていただくことを希望する。

なお、2時間の延長実施により諸業務等との対応は左のとおりである。これは、利用傾向や、館内事情により、変更する場合があるので掲示に注意してほしい。今後、積極的に図書館を利用して研究・勉学に役立てられることを期待している。

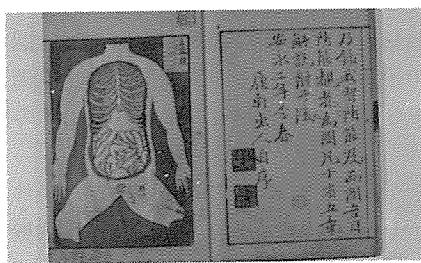
本館	(月)～(金)	(土)	備考
西玄関閉鎖	17：00	13：00	授業休業中
貸出業務停止	18：00	13：30	は夜間開館
参考業務終了	19：00	15：00	を実施しない。
書庫棟閉鎖	19：00	15：00	
閉館時刻	21：00	17：00	

## 大阪大学の源流 —— 懐徳堂、適塾、舎密局、医学校 ——

芝 哲夫

昨年大阪大学は開学50周年を迎えた。本学は昭和6年(1931)、医学部、理学部より成る大学として創設され、2年後に工学部を加えて3学部の特異な旧制帝国大学として戦後を迎えたが、昭和23年(1948)に法文学部が設置されて理科系、文科系を併わせ持つ総合大学としての形を整えるに至った。このように現在の制度での大阪大学の歴史は比較的新らしいが、その創立に至る過程を遡ると、その源流は遠く江戸時代の大坂の街の二つの私塾に到達する。

本学に法文学部が創設された時に、懐徳堂文庫36,000冊が寄贈され、現在も図書館に大切に保管されている。この懐徳堂とは、享保9年(1724)大阪町人道明寺屋吉左衛門、備前屋吉兵衛、三星屋武右衛門、舟橋屋四郎右衛門、鴻池屋又四郎のいわゆる懐徳堂五同志によって開かれた学塾であって、儒学者三宅石庵を学主とし、中井鼈庵を預り人として、現在の大坂市東区淀屋橋東南の日本生命本社の地に設立された。設立の翌々年には江戸の昌平黌に次ぐ幕府官許の学問所となつたが、昌平黌の官学とは異なる大阪町人塾としての特徴を發揮して明治に至るまで約150年間その講筵が続いた。石庵の時代には儒学諸派の学説を折衷するあまりに鶴学問と呼ばれることがあったが、その学統は五井持軒、蘭洲父子、続いて中井竹山、履軒兄弟に受け継がれるうちに、朱子学を骨子とした実証的かつ独自な学風を打ち立て、大阪の実学の基礎を築いた。懐徳堂は竹山、履軒の時代にその最盛期を迎え、竹山は「草茅危言」によって時の為政者松平定信に政治施策を提言するに至る。また懐徳堂五同志の一人道明寺屋吉左衛門すなわち富永芳春の三男仲基は「出定後語」などの著作で知られる天才的思想家であり、竹山、履軒に学んだ米仲買升屋の番頭山片蟠桃は「夢の代」を著わし、地動説などの西欧の科学的合理主義思想のすぐれた紹介者であった。



越組弄筆

立の人体解剖を実見した履軒は安永2年(1773)、「越組弄筆」なる精巧な図録を残した。これはわが国解剖学の嚆矢として常に挙げられる「解体新書」刊行の前年であったことは特記されてよいであろう。この「越組弄筆」の原本も懐徳堂文庫の一冊として本学図書館に保存されている。

懐徳堂の主流は朱子学を中心とするいわば文科系学間に属していたのに対して、自然科学系の適塾は懐徳堂が隆盛期を過ぎた頃の天保9年(1838)に大阪の瓦町において緒方洪庵によって開かれた。洪庵は備中足守藩(岡山県吉備郡)の出身であったが、16才の時に大阪に出て来て、当時新しい学問であった蘭学を中天游の思々斎塾に学んだ。その後、江戸、長崎で修

蟠桃が師事したわが国近代天文学の始祖麻田剛立も竹山、履軒の支援を得て大阪で活躍した。剛立は安永2年(1773)から始まる長堀中橋など大阪市街での日食観測によって遊星周期の2乗は太陽からの平均距離の3乗に比例するというケプラーの第三法則と同じ結論に実験的に到達していたという事実は当時の大阪の学問の実力を示す一例である。また剛立

あさ

だ こうりゆう

田剛立も竹山、履軒の支援を得て大阪で活躍

した。剛立は安永2年(1773)から始まる長堀

中橋など大阪市街での日食観測によって遊星

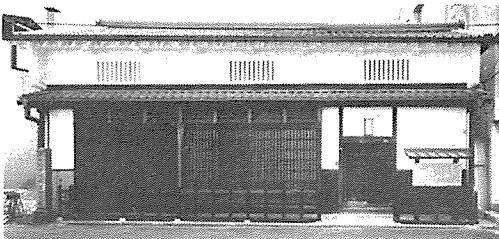
周期の2乗は太陽からの平均距離の3乗に比

例するというケプラーの第三法則と同じ結論

に実験的に到達していたという事実は当時の

大阪の学問の実力を示す一例である。また剛

業を積んだ後、大阪に戻って適塾を開いたのである。この適塾は5年後、過書町(現在北浜3丁目)に移ったが、現存する史跡、重要文化財「適塾」は当時の建物を昭和55年に解体修復されたものである。洪庵はこの適塾で、前後25年間に全国から集った千人にのぼる塾生達に蘭学を教えた。それは医学を中心としながら物理学、化学などの自然科学一般にも及び、オランダ語の学習を通じての洋学の習得が目ざされた。



適 塾

常に50名に近い塾生達が適塾2階の塾生部屋に起居していて、約10級に分かれて5日毎に行われる会読にそなえて、塾に一部しかない大部の蘭日辞書ズーフ・ハルマを引つぱり廻で利用した。会読の成績で3ヶ月首席を占めなければ上級に進めないという厳しい学則によって、適塾塾生は互いに切磋琢磨し、

会読の前日にはズーフ部屋の蠟燭の燈は朝まで消えることがなかったという。最近、当時の貴重なオランダ原書コレクションが北浜・船場ライオンズクラブから適塾記念会に寄贈された。

適塾に学ぶ者には日本国中で自分らだけが西洋日進の書を読むことができるという勃々たる気概があり、教える師の洪庵には国のために道のため当今必用の西洋学者を育てるという情熱があった。洪庵はまた「病学通論」「扶氏経験遺訓」など西洋医学の導入を企図した著作を行うほか、種痘の普及、コレラ治療などわが国の社会医学に大きい貢献を果たした。文久2年(1862)幕府は西洋医学の推進をはかるために、洪庵を奥医師として江戸に招聘し、後の東京大学医学部に連なる医学所の頭取に任命する。適塾を卒立った塾生達は明治に入って、わが国の近代化に各方面で目ざましい活躍をする。開國論を唱えた橋本左内、戊辰戦争の立役者でわが国の兵制改革を行った大村益次郎、五稜郭を建設した武田斐三郎、日本赤十字社を創設した佐野常民、わが国に近代衛生学を導入した長与専斎、東京大学医学部初代綜理となった池田謙斎、文明開化を唱え慶應義塾を創設した福澤諭吉、わが国統計学の開拓者杉亨二等々その名と業績を挙げるにいとまがない。正にこの師にしてこの弟子あり。また弟子が皆偉くなつたために師の名を一層高めたとも思える。

明治に入って、適塾卒業生が集つて洪庵の次男惟準を校長とし、長崎に来朝していたオランダ人軍医ボードウインを教頭として大阪に医学校が開設された。同時にオランダ人化学者ハラタマを教頭とした理化学校が併設された。この理化学校は当時の化学の意味の呼称「舍密」にちなんで舍密局と呼ばれた。後に文科系に当る洋学校も加わってわが国始めての総合大学の建設が構想されたのである。明治2年(1869)まず舍密局の洋風新建築が大阪城西側の大手通に面して完成し、5月1日に盛大



舍 密 局

な開所式が行われた。教頭ハラタマはこの舍密局において実験に重点を置いた高い水準の理化学教育をわが国に導入しようと試みた。後年、味の素を創始した池田菊苗、副腎髓質ホルモン、アドレナリンを発見した高峰譲吉、日本の薬学界の泰斗長井長義などわが国化学の台

頭期におけるすぐれた先駆者達の誕生はいずれもこのハラタマの理化教育に端を発している。しかし舎密局は明治3年(1870)に理学校と改名され、ハラタマは帰国、後任にドイツ人リッテルが着任した。一方明治2年2月に上本町4丁目の大福寺において仮病院が発足し、11月に鈴木町に大阪医学校が開かれる。京都木屋町において受難した大村益次郎の大腿部切断手術がボードウインによって行われたのはこの開校間もない医学校病院においてであった。

同年9月には天満川崎に大阪洋学校が開設され、翌年閏10月には大手前の理学校横に移転した。

このように適塾の後身とみなされる医学校に舎密局、さらには洋学校が加わって大手前に集まり、大阪の近代化に対応する高等教育



大福寺

組織が整備されて行った。その矢先の明治5年(1872)7月に突如明治新政府による中央集権的な新学制が定められ、大阪における専門教育機関はすべて廃止されることになり、人も物も組織もすべて東京開成学校(後の東京大学)などに移されてしまう。理学校、洋学校、医学校の後はすべて第四大学区第一番中学となり、やがて明治22年には旧制第三高等学校として京都に移転する。

しかしながら、医学校が廃止された翌明治6年(1873)2月には、この医学校の後を受けて大阪府病院が大阪府によって北御堂(津村別院)構内に建設される。こゝでは医学校時代からのオランダ医エルメレンスついでマンスフェルトを教師として医学教育が続けられた。現在の医学部玄関東北隅に建つ碑はこのエルメレンスの記念碑である。明治12年(1879)には大阪公立病院として現在の医学部の地の北区常安町に移転し、翌年府立大阪病院と改称して教授局を分離して府立大阪医学校となる。これが大阪府立高等医学校、府立医科大学の改称を経て、大正8年(1919)に大阪医科大学となり、昭和6年(1931)の大阪帝国大学創設の母体となったのである。

懷徳堂は明治2年(1869)に一旦閉鎖された後、大正2年(1913)に復興再建されてこの時懷徳堂記念会が設立された。前述のように戦後、本学の法文学部創設とともにその文庫の寄贈とともに記念会も本学内に収容された。このことより本学の淵源を遠く大阪町人の学問所であった懷徳堂に求めることができる。法文学部開設当時の今村総長の言にある「懷徳堂を本学文科系諸学部の源流とする」という経緯は以上の事実に基づいている。一方自然科学系学部の源流である適塾は組織の上では途中何度かの中斷があったとはいえ、人脈の点では大阪医学校を経て現在の本学の医学部に連綿と続いている。そしてまた明治初年に大阪の地に構想された医学校、舎密局を中心とする総合大学の夢は約60年の伏流の後に昭和6年の本学の創立となって結実したというべきであろう。

(理学部教授)



オランダ医エルメレンス

## 本学教官著作図書の寄贈お願い

従来から教官著作図書を寄贈していただき閲覧に供していましたが、今後、教官著作図書を積極的に蒐集し、閲覧室に展示または掲示して、広く学生および教職員に周知徹底させ、その有効利用を計りたいと思います。つきましては、教官著作図書が出版されましたら、ご寄贈くださいますようお願い申し上げます。これまでにも多大の図書を寄贈いただきました教官の方々には、この紙面をもちまして重ねてお礼申し上げます。

### 教官著作寄贈図書

#### —本館—

宮本又次(経・名譽教授)

町人社会の学芸と懐徳堂 宮本又次著  
(文献出版 昭57)

榎原 猛(教・教授)

イギリス憲法論 I. Jennings 著 榎原 猛、  
千葉勇夫「共」訳 (有信堂 昭56)

伊藤公一(教・助教授)

憲法概要 伊藤公一著  
(法律文化社 昭50)

教育法の研究 伊藤公一著  
(法律文化社 昭56)

#### —理学部分室—

若槻哲雄(理・名譽教授)

友垣 若槻哲雄先生退官記念事業会実行  
委員会編 (昭55)

森田正人(理・教授)

対称性原理 森田正人著(講談社 昭55)  
柳田孝司(理・教授)

量子光学(朝倉現代物理学講座 8) 柳田  
孝司著 (朝倉書店 昭56)

池田信行(理・教授)

渡邊 毅(理・教授)

Stochastic Differential Equations and  
Diffusion Processes. by N. Ikeda and  
S. Watanabe (Kodansha 1981)

#### —中之島分館—

近藤宗平(医・教授)

生命を考える 遺伝子、進化、放射線  
(岩波現代選書 NS 529) 近藤宗平著  
(岩波書店 昭57)

中川米造(医・教授)

医療マンパワーについての研究 中川米  
造[他]著 (政策科学研究所 昭56)

武富由雄(医病・技官)

下肢切断者のリハビリテーション  
W. Humm著 武富由雄[他]訳  
(医歯薬出版昭56)

#### —吹田分館—

庄野利之(工・教授)

機器分析演習 庄野利之[他]編著  
(三共出版 昭57)

## ブックディテクションを設置して

—はじめに— 現在、本館では、完全開架制により、約8万冊の図書が、1階および2階の各閲覧室等に配架され、利用者の皆さんのが、直接、これらの書架に接して必要な図書を利用できます。また、教養課程の学生は利用できませんが、書庫棟(研究閲覧棟)の図書についても同様に開架式で運営されております。

利用者の皆さんのが、図書館で、必要な図書を見つけたり、あるいは貸出中であったり、館内での閲覧中であったりすることは、館員と、利用者との対話の過程で、多くは処理されています。ところが、残念なことにぶつかるのです。それは、必要な図書が見つからない場合です。

「あり得べきはずの図書がない」。この場合「ありません」という利用者への回答は、図書館として恥しいこたえなのです。これではサービスが低下します。不本意ながら不明図書として指摘され、追跡調査に当たるわけです。利用者に対して、いちいち、入・退館時に持物を厳格にチェックをすることは、心情としてどうかと思われます。建物の構造的な欠点等により、入・退館者のチェックさえ、容易にできないのが現状です。

——設置して——ここにおいて、図書館資料を、いつも良好な状態で管理し、効率的に利用させるために、この「ブックディテクションシステム(開架図書管理システム)」の設置にふみきったわけです。設置に当たっては、(1) 効率的なチェックポイントを配慮すること、(2) 館内の改装は、最少限度にとどめること、などの条件を考慮して、56年4月に設置されたものです。

本館、図書館の東・西各1個所に、このシステムを置き、この4月で一年を迎えました。



こんど、皆さんのが入館されて、異様な光景(バー等)に接し、一瞬、たじろぎされるかも知れません。この装置は正規の貸出手続をしないで、図書を持ち出しますと、警報が鳴り、出口のバーが、ロックされます。館外貸出を希望される場合は必ず手続を済ませてください。

一昨年、すでに、この装置は、20余の大学図書館で採用され、効果を挙げているものです。稼動して約10ヶ月間の内訳は、別表のとおりとなっています。

います。これで、少なくとも199冊は、無断持出しが防止できることになります。ただ、精巧な装置であるため、誤報もあり、その大部分は、洋傘(折りたたみ式)であり、警報件数の約60%を占めております。

「洋傘探知機」の威力を示しているようで、「傘を持っていますか」と、聞く方が手っ取り早い場合もあり、雨天のときは、この警報が多いのです。また、原因不明で警報が鳴る場合2回目で鳴らなければ通ってもよいのですが、何度も、通っても鳴り、「追剝、みたいに、金属性のものを一つずつはずしてもらったこともあります。「ベルトのバックルかな」。「ああ、もう結構です」と、通したものの、ポケットの中までチェックできず、複雑な思いをすることもありました。

あるときは、何度も、強行突破しようとする人もあり、掛員は、警報が鳴るつど、カウンター内から、机の間をすりぬけて飛び出していきます。利用者を外まで追いかけ、クルマで逃げられるというケースもありました。いずれにせよ、警報が鳴った時点での当該利用者との応対の仕方には、特に気を使う場面です。

設置してのメリットは、言うまでもなく、(1)無断持出しが防止できること。(2)利用者の持物をそのまままで閲覧室等へ入室できること。このことは、ロッカーが、ほとんど不要となり、口

項目 月	無断持出	洋傘	貸出ミス	不明	その他	合計件数
4	36	32	24	8	51	151
5	28	69	29	7	6	139
6	26	146	18	44	2	236
7	16	76	0	15	6	113
8	3	19	0	7	3	32
9	34	54	3	8	7	106
10	9	68	1	9	1	88
11	19	40	8	12	2	81
12	7	39	1	11	2	60
1	21	44	6	11	0	82
計	199	587	90	132	80	1088
1ヶ月平均(概数)	20	59	9	13	8	109

ツカースペースの有効利用が期待されることです。(3) 利用者の持物管理が、各自でできること等です。

——おわりに——この装置を1階に設置したことによって、利用者が、2階への連絡通路が1階のカウンター前からだけとなりました。館内諸施設への「流れ」(動線)が、多少、制約されましたが、これは、既設建物に設置するということからきています。

利用者の皆さんには、入口ゲートに入るときは、普通に歩いて、手でバーを押して入室してください。勢い込んで入られると、入口でもロックする場合があり、大へん危険です。「図書は『みんなのもの』という共同利用の原則にたち、必ずルールを守って、大切に扱う習慣をつけていただき、積極的に図書館を利用してください。

ブックディテクションシステムそのものの欠点や、改善は、今後に残された課題です。本館としては、入館者チェックを兼ねたものと連動するような装置をと望みは尽きないので……。今は、館員の精神的な負担が、いくらか軽くなったことの意義を改めて評価したいと思います。不運にも、警報にぶつかって不愉快な気持に駆(か)られるでしょうが、その原因調査には、ご理解、ご協力を願います。 (津田恭司 閲覧第一掛長)

## 昭和57年度館内オリエンテーションのお知らせ

4月7日、入学宣誓式当日の図書館オリエンテーションの他に、実際に図書館を見て、図書館の機能と利用上の注意等を知ってもらう、新入生を対象にした館内オリエンテーションを下記の期間行ないます。

日 時 4月15日(木)～4月21日(水) 12時15分～13時00分

(但し、15(木)、16(金)のみ17時00分～18時00分にも行ないます)

場 所 図書館 視聴覚室(旧館3階) 定員約60名

学生生活において、図書館を効率的に利用するために是非ご参加下さい。なお、文学部、法学部、経済学部の学部進学生等を対象にした、レポート作成の際の資料収集等に関するオリエンテーションは昨年に引き続き5月中旬に行なう予定ですので、館内掲示等にご注意下さい。

## 会議

### — 分館長会議 —

57. 1. 11(月)15:00～17:00 (中之島分館会議室)

報告事項 1.図書館維持費の配分について 2.外国雑誌購入費(第1種)について 3.外国図書購入費(大型コレクション)について 4.特別図書購入費について 5.昭和57年度新規概算要求の電算機借料及び導入経費に対して予算配分があったこと等について説明があった。

協議事項 1.学生用図書購入費追加配分について各部局への配分率の説明があり、検討の結果原案どおり了承された。2.昭和58年度概算要求について要求理由等説明があり検討の結果原案どおり了承された。3.館長の提案である大阪大学学術情報問題懇談会が次のような構成で発足することが了承された。各地区より1名、大型計算機センター長、情報処理教育センター長、千原教授。4.電算機導入経費の配分により、機種の選定のための館長諮問機関として、機種選定委員会を発足することが了承された。

 日 程 

56. 12. 15. 昭和56年度近畿地区国公立大学図書館協議会主題別〔自然系〕研究集会  
(京都大学)
57. 1. 11. 分館長会議  
(中之島分館)
57. 1. 27. 近畿地区国公立大学図書館協議会参考図書に関する委員会  
(京都大学)
57. 1. 28. 昭和56年度国立大学図書館協議会第2回常務理事会  
(東京大学)
57. 1. 28. 昭和56年度 国立大学図書館協議会賞第2回受賞者選考委員会  
(東京大学)
57. 1. 28. 国立大学図書館協議会地区連絡館打合会議  
(東京大学)
57. 1. 28. 昭和56年度第3回図書館職員研修講演会  
(本 館)
57. 1. 29. 第18回大学図書館国際連絡委員会総会  
(本 館)
57. 2. 2. 昭和56年度国立大学附属図書館事務部長会議  
(北海道大学)
57. 2. 5. 第8回国公私立大学図書館協力委員会  
(国立国会図書館)
57. 2. 5. 大学図書館長と国立国会図書館長との懇談会  
(国立国会図書館)
57. 2. 12. 第17回国公私立大学図書館協力委員会文献複写委員会  
(関西大学)
57. 2. 19. 近畿地区国公立大学図書館協議会主催図書館施設に関する研究集会  
(大阪産業大学)

 館内の動き 
**昭和56年度第3回図書館職員研修講演会**

基礎工学部須田信英教授の“問題と解答”と題する講演が昭和57年1月28日(木)本館視聴覚室で行なわれた。数学者がある問題を解決したとするのは、その問題をすでに解決済の問題に帰着せしめることである。しかし、論理がすべてであるとする問題解決の方法は、現実を問題とする時、必ずしも良くはない。明白であると考えられた前提条件がまちがっていると、論理的に正しくとも、まちがった結論に導かれるからである。現実にもとづいて解答を見い出すこと、すなわちサンプルから結論を導き出す事の正しさの程度を知るのに推計学がある。そして、結論が絶対正しいとするのは、しばしば困難である。このような問題を論じた講演は科学史におけるエピソードや例題をまじえ興味深いものであった。

**カード方式による校費複写が可能となる**

昨年、書庫棟が増築されたことにより、豊中地区の学部から多数の図書が本館に移された。このため本館の利用が増えているが、複写を希望する場合、貸出・複写手続等が必要なため不便な点があった。そこで、4月から校費支払の複写利用に限定して、1階にカードで複写ができる機械を設置した。あらかじめ希望のあった講座にカードを配付しておくためカードを持参すれば所属身分・氏名等を申込用紙に記入する必要はない。また書庫出入口に複写機を設置しているため貸出手続が不用になる。カードを差込むことによって講座名が記録され、複写機が動くようになるのでカードの保管は充分注意してもらいたい。

 人 事 

57. 2. 28. 辞 職 津田綾子 医学情報課目録掛事務補佐員  
57. 2. 28. フ 高田 聰 医学情報課運用掛事務補佐員